

東洋木材新聞

毎月5日・20日発行
 〒590-0015 大阪府東区南船場江国九三〇
 電発行所東洋木材新聞社
 F 電話六二〇〇八〇八番
 振替口座〇〇〇〇〇〇〇〇〇番
 定価一年一万円税別
 発行人 島崎公一
 toyomoku@read.com.jp

化粧名栗 (有)橋商店
 大阪市西区立売堀
 TEL06(6443)2108
 FAX06(6443)8881
 栗別換材

大阪木材クラブ100周年記念園遊会

43名が集い和やかに会場は大阪倶楽部

大正12年(1923年)に誕生した大阪木材クラブ(委員長・雪本政通氏)の「創立100周年記念園遊会」が担当幹事三氏「李保正夫・松山能久・島崎公一」の段取りで10月14日(土)午前11時30分より今橋の「大阪倶楽部」4階大ホールに43名が参集して盛大に催された。



湯川皇子さん(大信製材社)の司会で始まり、冒頭雪本委員長が謝意とともに大阪木材クラブ百年の歴史をかいつまんで説明し「当クラブがこれから150年、200年と続きますように祈念します。本日はごゆつくりお寛ぎ下さい」と挨拶した。続いて雪本委員長と同一年で悪友の上田正紀氏(上孝木材商店社長)が自慢の喉で詩吟を朗読して会場を引き締め、津田潮氏(大阪府木連会長、津田産業社長)の祝辞と乾杯で百年の宴の幕が上がった。宴半ばよりハープ演奏(音木浩子さん)とソプラノ歌手(美堂舞さん)による記念コンサートで場内は酔いしれ、伊藤正雄氏(大阪木材相互市

場社長)の結びの言葉で祝宴を閉じた。記念撮影は元カメラマンの川邊博史氏(川辺材木店社長)が取り仕切った。当日の出席者は次の諸氏:雪本政通、津田潮、由貴、伊藤正雄、和子、上田正紀、大和秀樹、久我三郎、三和子、作部屋雅稔、稻川淳一、雄一、飯室正樹、李保正夫、福本桂木、賀子、森口一郎、佐藤原



①集合 ②雪本委員長 ③詩吟の上田氏 ④司会 ⑤湯川皇子さん ⑥乾杯は津田氏



ハープの音木さん(右)とソプラノの美堂さん(左)

二、長谷川幸雄、松山泰造、竹本三千雄、下地義男、かおり、橋本博敬、入江登志子、上村由美子、大下操、湯川皇子、楠勝頼、渡部功、幸子、前重興亮、浦本雅史、石本龍雄、大地庸元、久我四郎、忠子、川邊博史、春木浩子、美堂舞、橋本真一、島崎公一、博子。

【大阪木材クラブ百年の歩み】大正12年に誕生した大阪木材クラブは毎月1回例会を開き、先の大戦で中断するまで239回の例会を開催していた。戦後、東洋木材新聞の島崎真平の奔走で復活させ、昭和23年1月23日に日本デモクラシー会館(東区瓦町5丁

秋の褒章

島津浩之氏に黄綬褒章

11月3日発令の令和5年秋の褒章で島津浩之氏(〒545-0033 大阪市阿倍野区北畠3丁目13-20)が黄綬褒章を受章した。

【島津浩之氏】(一社)大阪府木連理事・(一社)平林会副理事長・平林会木材協同組合



副理事長・中田木材工業(株)社長。同氏は長年に亘って木材業に従事し、多種多様な広葉樹材の安定供給に向けて豊富

な知識と経験を活かし、常に時代の流れを先取りしながら積極的に取り組んだ。特に自社倉庫を活用したギャラリーを整備し、他業種と連携した家具等の木製品の製作体制を構築するとともにインターネットも活用し、全国各地の消費者への販売を可能とする体制を積極的に推進し、業界の発展・向上に寄与した功績は誠に大きい。

また、府木連はもとより地元平林会・平林会木協の要職を長年務め、木材に関する各種施策に積極的に取り組み、国産材等の普及に多大な貢献を果たした。さらに同氏は、平成23年(2011

目)に約100名が集まって大阪木材クラブの発会式が催された。その後は年に8〜10回程度開かれ、通算138回を数えた

が世話人の死去(昭和34年7月)の影響が大きくなり次第に減少した。昭和48年(1973年)6月、大阪木材会館の本徳太郎専務と東洋木材新聞の島崎三四郎が相談して大阪木材会館

PRO フォウプレカット

大合商 第3回理事会

研修会と新年賀詞交歓会など審議 = 10月20日
 大阪合板建材商業組合(組) 会長・桑原健郎氏、正会員44社・準会員7社)の令和5年度第3回理事会が10月20日(金)午後2時から中央区南船場3

年)の第7回から令和元年(2019年)の第15回までの9年の長きに渡って「木に触れよう平林祭り」の発行委員長を務め、木材普及と地域発展に大きく貢献した。

農水省から受章の報を受けた島津氏は「まさか自分がこのような栄誉に浴するとは...。家内共々舞い上がっています。幸運なことに今回から夫婦で陛下に拝謁が出来るとのこと。気持ちが高ぶっています。これも偏に皆様のおかげです。本当にありがとうございます。11月13日の伝達式に臨むまで人混みを選けた清潔な生活を送ります」と喜びを話した。